

第 27 回山形県理学療法学会趣意書

『役割の再考 ～地域生活を支える理学療法士であるために～』

第 27 回山形県理学療法学会

大会長 五十嵐 めぐみ

超高齢社会を目前に控え、理学療法士を取り巻く環境は近年目覚ましく変わってきています。国は、高齢者の尊厳保持と自立支援を目的に、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで送ることができるためには、「効率的かつ質の高い医療提供」と「地域の包括的な支援・サービス提供」の体制を整えることが不可欠であると述べ、これらを整備すべく「地域包括ケアシステムの構築」を推進しています。

そのような状況の中、地域生活の中で患者・利用者とその家族が自分らしく生きていくため、私たち理学療法士は的確な評価と質の高い技術を提供していくことが求められています。

そこで、第 27 回山形県理学療法学会のテーマを「役割の再考～地域生活を支える理学療法士であるために～」と題し、それぞれの施設で、患者・利用者の地域生活を支えるために、理学療法士が身体機能の向上を基本とし、生活機能をどう高め、活動と参加に結び付けるためにどう取り組んでいるのか、そして今後の課題について考えていきたいと思えます。

特別講演には、日本理学療法士協会理事である森本榮先生をお迎えして、2025 年に向けての今後の動向、理学療法士の役割、これから先、我々理学療法士が社会に貢献し続けるためにすべきことをご講演していただきます。また、シンポジウムでは、医療の立場として、急性期・回復期を担う病院、介護の立場からは通所リハ、訪問リハ、そして医療と介護の架け橋になる地域包括ケア病棟とそれぞれに勤務する先生方から話題を提供していただき、患者・利用者の活動と参加を促すための評価と介入における現状と課題、取り組みについて検討したいと考えています。

公開講座は、介護予防講座で高齢者から多く相談を受ける膝痛について、その予防と治療に関するお話を日本海総合病院整形外科の針生光博先生から講演していただきます。

高齢者が住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで送れるように地域がサポートしあうという地域包括ケアシステムが本格的に始動する年に、最新の情報を交えながら会員の皆様と検討する機会にしたいと考えております。

多くの会員のご参加とご発表を心からお待ちしております。